

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2010-400
研究課題名 CTを使用した肩前方不安定症患者における Glenoid track と Hill-Sachs 損傷の3次元的位置の検討
研究期間 西暦 2010年 12月 (倫理委員会承認後) ~ 2012年 12月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料 (対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 生検材料 (対象臓器名 ) <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 肩関節術前 CT データ )
上記材料の採取期間 西暦 2006年 4月 ~ 2010年 11月
意義、目的 肩関節脱臼のほとんどは前方脱臼であり、脱臼の際に肩甲骨関節窩の前下方関節唇の剥離 (Bankart 損傷) や関節窩の骨欠損、上腕骨頭の後外側の骨陥凹 (Hill-Sachs 損傷) が生じ、治療は主に手術によって Bankart 損傷の修復が行われている。手術の際、大きな Hill-Sachs 損傷は術後の成績不良因子と言われており、関節窩とかみ合いを起こすことが知られている。しかし、治療を要する Hill-Sachs 損傷の指標に関して解剖学的あるいは生体力学的観点からの検討はなかった。そこでわれわれは Hill-Sachs 損傷の手術適応を明らかにするために、屍体肩を用いて関節窩と上腕骨頭接触域を調べ、関節窩が描く上腕骨頭上の帯状の軌跡を glenoid track とし、Hill-Sachs 損傷と glenoid track の位置関係で、治療を要する Hill-Sachs 損傷か否かを判断する新しい概念を提唱した。 本研究の目的は、肩関節不安定症患者の術前肩 CT データを用いて、実際の患者での両者の位置関係や、治療を要する Hill-Sachs 損傷の頻度を明らかにすることである。
方法 本研究の対象は 2006年 4月 ~ 2010年 11月に東北大学病院整形外科で肩関節不安定症に対して手術を行った患者の術前 CT データである。CT の DICOM データは連結可能匿名化を施した後、コンピュータへ取り込んで計測を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学整形外科医局 山本宣幸 黒川大介 022-717-7245